



新型コロナウイルス 運営マニュアル

改訂版／0804 ※チーム配布可能

大会運営について

運営スタッフ・チーム関係者・選手の皆さまにはまずは個人防衛をお願いします。運営スタッフ・チーム関係者・選手、運営に携わるすべての皆さま、そのご家族一人一人が、新型コロナウイルスの特性を理解し、感染を予防する行動を取ってください。それでも感染を100%防ぐ手だては、残念ながらありません。

そこで集団防衛です。「体調が悪いけど、我慢して練習に出よう、仕事にいこう、ちょっと試合を観るだけだ」といった行動が感染を広げてしまう可能性があります。発熱・咳・倦怠感などの症状を認めたら休む勇気を持つこと。そのことを報告する勇気をもつことを、是非お願いいたします。また応援の皆さまにも、観戦にあたって、発熱・咳・倦怠感などの症状を認めた場合には体育館に行かない、という文化の醸成が求められています。こうした個人防衛と集団防衛を通じて、社会防衛に貢献していきましょう。

大会運営について

ブロック大会以上の大会で新型コロナウイルスの対応をまとめたものです。

原則はマニュアルに沿って運営して頂きますが、体育館の構造や、スタッフの確保の問題等でマニュアル通りに対応できない場合は実行委員長の判断で対応してください。

運営にお願いしたいこと

- 3密を避ける
- 体育館に来るまでや、体育館での予防策の徹底
- もし感染した場合の速やかに対応（連絡など）できる体制の構築

● チームスタッフ・選手にお願いしたいこと

試合前2週間から試合後の流れ

- ① 大会2週間前からの健康管理（検温・体調の記録）※「健康チェックシート（問診票）」の記載
- ② 試合会場へは更衣を済ませ、できるだけ体育館での更衣室の使用を控える。
- ③ 試合会場へは来場は密にならないように工夫し、駐車場のある会場は自家用車の使用を推奨します。
- ④ チーム責任者は全員分の健康チェックシート（問診票）を大会受付に提出する ※毎日各1枚ずつ
- ⑤ 試合会場では、マスクの常時着用（試合中のフロアを除く）をすること
- ⑥ 試合会場では指定された待機所でソーシャルディスタンス（2m）を保ちながら待機すること
- ⑦ フロアへの入場は運営スタッフの指示に従うこと。入場の際はチームでまとまって入場すること。
フロア入場の際はマスクを着用すること
- ⑧ 声を出しながらのアップは禁止とします。また試合前のチーム同士や審判への握手は控えてください。
- ⑨ コーチは大きな声での指示は控え、指示する際はマスクを着用すること。控えの選手は応援等は控えること。
- ⑩ 試合終了後はベンチの消毒を行う事
- ⑪ 試合終了後はミーティングは手短かに済ませ、早急に着替えを行い速やかに会場から退出すること
- ⑫ 終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に速やかに濃厚接触者の有無を報告すること

次のゲームのハーフタイムでの練習の禁止

●チームが準備しなければならないもの

- ① 健康チェックシート（問診票）
- ② 体温計
- ③ 手指消毒用のアルコール
- ④ ゴミ袋 ※各チームで生じたゴミは、各チームが責任を持って持ち帰ること
- ⑤ 自チームの器具の等の消毒用のアルコール
- ⑥ マスク ※マスク未着用者いる場合は試合への参加をご遠慮して頂くことがあります。
- ⑦ 使い捨てゴム手袋

上記の備品については大会本部でも用意致しますが、設置する場所が限られるため、自己防衛のためにも各チームでご用意ください。

感染拡大予防の観点から試合後のベンチの消毒についてはチームが試合後に消毒をしてベンチを去る
※消毒用のアルコール等は運営側で用意
※器具の品質保持のため体育館側から銘柄等を指定されることがあります。

●運営スタッフにお願いしたいこと

試合前2週間から試合後の流れ

- ① 大会2週間前からの健康管理（検温・体調の記録）※「健康チェックシート（問診票）」の記載
- ② 試合会場へは更衣を済ませ、できるだけ体育館での更衣室の使用を控える。
- ③ 試合会場へは来場は密にならないように工夫し、駐車場のある会場は自家用車の使用を推奨します。
- ④ 健康チェックシート（問診票）を大会本部に提出する ※毎日各1枚ずつ
- ⑤ 試合会場では、マスクの常時着用をすること
- ⑥ ソーシャルディスタンス（2m）を保ちながら対応すること
- ⑦ 選手等の対応で接触する際はゴム手袋を使用すること
- ⑧ 飛沫等が考えられるゴミ等処理する際はゴム手袋を使用すること
- ⑨ 打ち合わせを行う際は対面は避けること
- ⑩ 試合終了後はミーティングは手短かに済ませ、早急に着替えを行い速やかに会場から退出すること
- ⑫ 終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に速やかに濃厚接触者の有無を報告すること

審判は審判用のガイドラインで対応する

●運営がコロナウイルス感染症の予防として設置するもの

① 受付

- 手指消毒用アルコール、器具消毒用のアルコール、体温計、ペーパータオル、使い捨てゴム手袋、専用のゴミ袋

② 諸室

- 手指消毒用アルコール、器具消毒用のアルコール、ペーパータオル、使い捨てゴム手袋、専用のゴミ袋

③ フロア入り口

- 手指消毒用アルコール

④ TO席・ベンチ用（チーム用×各2、審判・TO用×各1）

- 手指消毒用アルコール、器具消毒用のアルコール、ペーパータオル、使い捨てゴム手袋、専用のゴミ袋

感染拡大予防の観点から試合後のベンチの消毒についてはチームが試合後に消毒をしてベンチを去る

⑤ 更衣室（体育館から要請があった時のみ）

- 手指消毒用アルコール、器具消毒用のアルコール、ペーパータオル、使い捨てゴム手袋、専用のゴミ袋

**上記以外に運用に合わせて対応してください。
アクリル板が必要な時は運営側で用意してください。**

コロナウイルス感染症のマニュアル ※運営スタッフ・チームスタッフ・選手共通

試合前2週間から当日までに次の場合、必ず報告してください

- ①37.5℃以上の発熱が2日間続いた場合（平熱が低い方はプラス1.5度を基準とする）
- ②せき | 頭痛 | 体のだるさ | のどの痛み | 食欲低下 | 睡眠時間 | 味覚や嗅覚の異常が続いた場合
- ③発熱が無くても「息苦しさ（呼吸困難）」「強いだるさ（倦怠感）」等の強い症状が発生した場合
- ④PCR検査を予定している
- ⑤PCR検査の結果が陽性
- ⑥濃厚接触者指定を受けた、または疑わしい

上記の症状がある場合は特別な理由が無い限り大会に参加できません。

→特別な理由とは
常用している薬の副作用で頭痛などがある。
身体ホルモンバランスによる高温期

スタッフ・選手および家族も含めたチーム関係者に疑い例が出た場合の対応

- ①保健所よりスタッフ・選手および家族も含めたチーム関係者が濃厚接触者の認定を受けず、症状が無い場合は大会に参加できます。

スタッフ・選手および家族・職場も含めたチーム関係者に「疑い例」が出た場合は大会本部へ報告

コロナウイルス感染症のマニュアル ※運営スタッフ・チームスタッフ・選手共通

職場の同僚・同居家族・同居者が濃厚接触者と判断された場合

- ①同居家族・同居者が濃厚接触者と判断された場合は大会に参加できません。
- ②職場の同僚が等が濃厚接触者と判断された場合は、保健所から本人が濃厚接触者と判断されなければ大会に参加できます。
- ③解除については濃厚接触者がPCR検査で陰性の結果ができるまで。

運営スタッフ・チームスタッフ・選手、本人が濃厚接触者と判断された場合

- ①濃厚接触者と判断された場合は本人は大会に参加できません。
- ②解除については濃厚接触者がPCR検査で陰性の結果ができるまで

職場の同僚・同居家族・同居者が新型コロナウイルス感染者と判断された場合

- ①同居家族・同居者が新型コロナウイルス感染者と判断された場合は本人は大会に参加できません。
- ②職場の同僚が等が新型コロナウイルス感染者と判断された場合は、保健所から本人が濃厚接触者と判断されなければ大会に参加できます。
- ③解除については新型コロナウイルス感染者がPCR検査で陰性の結果ができるまで。

運営スタッフ・チームスタッフ・選手、本人が新型コロナウイルス感染者と判断された場合

- ①新型コロナウイルス感染者の潜伏期間中も含めて、本人が参加して練習等を行ったチーム（他のスタッフ・選手に感染が疑われる）は大会に参加できません。
- ②他へのスタッフ・選手に感染の可能性が無い場合は大会に参加できます。

**現状では感染が疑われる人、濃厚接触者はPCR検査の対象となる。
PCR検査の結果が陰性の場合に大会に参加できる**

コロナウイルス感染症のマニュアル ※運営スタッフ・チームスタッフ・選手共通

大会期間中に運営スタッフ・チームスタッフ・選手が濃厚接触者と判断された場合

- ①保健所の指導の下、原則として大会は続行する
- ②濃厚接触者が出たチームのみ状況によっては大会への参加をご遠慮頂く。

場合によってはそれまでの対戦相手に大会参加を遠慮頂く場合ある（さらなる感染拡大防止）

大会期間中に運営スタッフ・チームスタッフ・選手が感染者と判断された場合

- ①保健所の指導の下、原則として大会は中止・延期する

運営スタッフの準備段階で判断された場合は大会を続行する

**上記の事案が発生した場合や想定した以外の事が起こった場合は
開催地大会責任者、門川専務理事、山花競技委員長との協議の上、JSBが最終判断する**

※主管・主催が最終判断する（判断責任の明確化）

コロナウイルス感染症のマニュアル

情報開示について

その際、感染症に関連してかつて患者やその家族等に対するいわれのない差別や偏見が存在した教訓から、個人の人権が損なわれることのないよう、情報保護等には十分留意が必要です。

「病歴」は個人情報のなかでも極めてセンシティブな、プライバシーがより保護されるべき情報です。
また、個人名はチーム名は原則非公開とします

運営スタッフ・スタッフ・選手から濃厚接触が出た場合

運営スタッフ・スタッフ・選手から濃厚接触が出た場合

→原則発表しない。ただし、その濃厚接触者との接触が考えられる関係者には個別に連絡する。

運営スタッフ・スタッフ・選手から感染者が出た場合

運営スタッフ・スタッフ・選手から感染者が出た場合でその感染者が大会に参加していた場合は

→発表する

※PCR検査受診時は、発表しない

大会後、1週間以内に発覚した場合でも公表します。※試合観戦者は発表しない
感染の疑いが保健所から指導があった場合は公表する

コロナウイルス感染症のマニュアル ※運営スタッフ・チームスタッフ・選手共通

報告について

- チームスタッフ・選手の職場の同僚・同居家族・同居者が濃厚接触者と判断された場合
→ PCR検査で**陰性の結果が出ている時**は対戦相手に伝えない
- チームスタッフ・選手の職場の同僚・同居家族・同居者が濃厚接触者と判断された場合
→ PCR検査で**まだ検査中の時**は対戦相手に伝える、
- チームスタッフ・選手の新型コロナウイルス感染者と判断されたが他へのスタッフ・選手に感染の可能性が無い場合
→ 対戦相手に伝える

コロナウイルス感染症のマニュアル

報道関係者の撮影等対応について

報道関係・チーム関係の広報以外の取材・撮影できません。
※個人的趣味や選手のファン等の撮影は許可できません。

報道関係者ガイドライン

- 媒体使用目的の試合のみ取材・撮影可能。
- チームの広報の場合は対象の試合のみ取材・撮影可能。
- 名刺、取材申請書、健康チェックシートを大会本部にご提出する。
- 感染症予防対策（会場での検温・手指消毒・マスクの着用・撮影した場所の本人により消毒）へ協力
- 2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に速やかに濃厚接触者の有無を報告すること

オペレーションについて

- ① 取材申請書等を提出
- ② 取材・撮影対象試合の10分前にビブスを渡す。（感染が発覚した場合の行動を容易に確認するため）
- ③ 取材・撮影対象試合終了後速やかにビブスを回収
- ④ 使用したビブスは袋に詰め洗濯する

撮影場所について

- コートエンドから2mのところ撮影フォトエリアを設置してください。
- コートエンドから2mのところ撮影エリアが確保できない場合はコートサイドからの撮影
- コートサイドも確保できない場合は撮影を許可しない。

とくにカメラマンはコートエンドで飛沫感染の可能性が高く管理は厳しく行いたい

コロナウイルス感染症のマニュアル

無観客の対応について

原則は無観客試合とします。

特別な対応について

- やむを得ない事情がある場合は観客席での観戦を認める。運営責任者が判断する。
- その際は健康チェックシートを大会受付にご提出する。
- 感染症予防対策（検温・手指消毒・マスクの着用・撮影した場所の本人により消毒、ソーシャルディスタンス）へ協力

観客席の使用について

- 運営スタッフ・チームスタッフ・選手の待機場所として利用可能
- 自チームの試合後のチームスタッフ・選手の待機所としては認めない ※速やかな帰宅を推奨

表彰式について

- 密を避け簡易的に行う
- チームを集めての表彰式は行わない。
※数名だけ集めて表彰。またはプレゼンターが移動し渡す。
※表彰式の省略も検討可

